

総論

満点	100点	目標得点	84点	試験時間	60分	偏差値	72
大問数	4	小問数	50				
【解答形式】		選択式	5/50問	記述式	45/50問	論述式	0/50問
【問題難易度】		C	8/50問	B	13/50問	A	29/50問
※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：大問4題、設問50問は昨年と変わらず、極端な難問の出題はなくなった。
- 2：古代から現代まで満遍なく出題され、史料問題が今年も出題された。
- 3：近年にほとんど出題がなかった文化史が大問2題で出題された、文化史に要注意。

こんな力が求められる！

難易度は教科書レベルで、センター試験で90点ぐらい取る力があれば、目標点以上の得点が期待できる。近年、難問が減る傾向が見られたが、特に今年は手も足もないような極端な難問がまったく出題されなかった。ただ易しい問題が多いわけでもない。古代から現代まで満遍なく出題され、記述式がほとんどであるから、苦手な時代・地域・ジャンルがないようにすること、歴史用語（単語）を正確に書ける力が必要となる、特に中国史の漢字には気をつけたいものである。

【IV】石油関連史の問題などは、最近の地球温暖化・エネルギー問題・アメリカの自動車会社の経営破綻が背景と思われる。日頃から世界の出来事に関心を持つことが必要である。

慶應義塾大学はどの学部も、どのような学生を求めているかが入試問題に反映されている、つまり強いメッセージが入試問題にみられる。文学部の今年度の文化史に関する出題が、大問4題中2題、この傾向は、これからも継続するのではないかと思われる、一般に近年の世界史入試問題では文化史の出題が減っているが、慶應義塾大学文学部志望者は、必ず文化史に注意して受験に望まなければならない。

例年出題される史料問題であるが、決して難問ではない。内容をよく読めば、設問もヒントとなり、正解に十分到達できるはず、特に対策の必要はないだろう。また、史料はアメリカ史・中国史に限定されているようだ。この傾向を知って受験すれば、史料問題にパニックを起こすはないだろう。ただし、過去問に対して十分な対策を立てずに受験すれば、面食らって混乱し、実力を出せないかもしれないが…。

以上慶應義塾大学文学部の入試問題は、難問はほとんど出題されないから、お茶ゼミの世界史総合のテキストで十分に対応できる。しかし、最低でも過去問3年分ぐらいは自ら解いて、傾向を把握し、問題集などで実戦力を磨く必要がある。文化史についても1問1答形式では対応できない、文章の空所補充形式の問題を解くことで実力を養うこと。受験前日は文化史のチェックをすることをお勧めする。

【I】

予想配点 20/100点	時間配分の目安 15/60分
出題分野・テーマ 中国古代史（史料問題）	
出題形式 空所補充（記述式）、短答（選択式・年代整序）	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1：(A)A (B)C (C)C (D)C (E)A 設問2：①A ②A ③A ④B ⑤B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・3月期②3,4回 ・後期（中国史） ・直前特訓「文化史完成（東洋文化）」	

●本大問の特徴・概要

中国史の漢詩を用いた史料問題であるが、内容は教科書レベルで決して難問ではない。史料も特に対策は必要がないレベルの漢詩とその説明文である。文章の空所補充の記述式が5問、短答式が5問、短答式のうち2問が選択式、年代整序が1問。空所補充のB・C・Dはやや難問であるが、手も足も出ない問題ではない。地図に関する設問④も標準的な出題である。設問⑤の年代整序も史料から十分に時代順は導けるはずである。

●注目すべき小問

[C難問]

設問1

(B) の前漢の劉向による『戦国策』は戦国時代の名の由来、直後の「燕策」は大きなヒントである。

(C) の呉王夫差は越王勾践との対立、対立から生まれた「臥薪嘗胆」「呉越同舟」など故事成語で著名な春秋五覇の一人であるが、記述となるとやや厳しいか。

(D) の『漢宮秋』は『西廂記』『琵琶記』とともに元曲の代表例で3冊とも覚えていて欲しいが、山川の用語集では他の2冊が頻度⑩に対して、『漢宮秋』は頻度③。記述となると難問となるだろう。さすが慶應。

[B合否を分ける問題]

設問2

④上海に最も近いところという出題、歴代中国王朝の首都やアヘン戦争の南京条約の開港場である5港は地図問題の中でも頻度が高い、文化史とともに地図についてはこつこつとその都度の確認が必要、結構合否に差が出る問題である。

⑤年代整序の問題も難問ではないだけに合否に影響する問題といえる。

[A正答すべき問題]

設問1

(A) の秦の都である咸陽、(E) の秦の統一である紀元前221、この2問は基本も大事であるという典型的問題か。

設問2

①単于は基本中の基本。

②陳勝を陳勝呉広とした受験生もいたらしいが気をつけよう。

③垓下の戦いで有名な四面楚歌は選択問題でもあるし、確実に得点したいところである。

【Ⅱ】

予想配点 30/100 点	時間配分の目安 15/60 分
出題分野・テーマ 西洋文化史	
出題形式 空所補充（記述式）	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A)B (B)C (C)A (D)A (E)C (F)A (G)A (H)B (I)C (J)B (K)A (L)A (M)C (N)A (O)A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・夏期講習「文化史」	

●本大問の特徴・概要

宗教と科学を中心としたヨーロッパ文化史に関する空所補充形式の記述問題。標準レベルの問題が多く難問らしい難問はないだけに、文化史を軽んじた受験生には厳しい問題、合否を分ける大問といえる。2009年度の大問【3】にオリンピックに関する問題、大問【4】にチベット仏教（ラマ教）に関する問題があったが、ダーウィンの出題は『種の起源』が1859年で2009年が150年目にあたるためと思われる。やはり出題者はその年度の時事問題を参考に問題作成をするという典型。

●注目すべき小問

[C難問]

(B) (K) については人名と著書まで覚えておかなければならない典型で、プトレマイオス『アルマゲスト（天文学大全）』、ニュートン『プリンキピア』は得点して欲しいが、記述となると『アルマゲスト』は厳しいか。

(E) は信仰と理性、神学と哲学の区別から唯名（名目）論と考え、アベラールはフランス人であるから、イギリス人というヒントもあるのでウィリアム=オブ=オッカムを導き出したいが、やはり記述は厳しい。

(I) 地動説を唱え、火刑がヒントだが記述は厳しい。

(M) 宇宙進化論をヒントにラプラス、やはり記述となると…。

[B合否を分ける問題]

(A) の水を万物の根源としたタレスが日食を予言したことまで覚えていた受験生はなかなかいないだろう。自然哲学者の中からギャンブルした人がほとんどか。ペリクレスが師と仰ぎ「太陽は燃える岩塊に過ぎない」と月の満ち欠けを説明し、日食の原因を説明したアナクサゴラスを考えた受験生はいたろうか？

(H) 初めて望遠鏡で木星の衛星を観測がヒント。

(J) 「cogito ergo sum（われ思う、故にわれあり）」は演繹法（合理論哲学）を創始したデカルトの『方法序説』の著名なフレーズ、一般教養。

[A正答すべき問題]

(C) (D) (F) (G) (O) は基本、間違えれば即不合格。

(L) 『哲学書簡（英国だより）』は意外に覚えにくいらしいが、最も代表的啓蒙思想家ヴォルテールの著書。

【Ⅲ】

予想点	30/100点	時間配分の目安	10/60分
出題分野・テーマ	衣類の歴史		
出題形式	空所補充（記述式）、短答（記述式・選択）		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 空所：(A)A (B)B (C)A (D)A (E)B 設問：①A ②A ③B ④A ⑤A ⑥A ⑦C ⑧B ⑨A ⑩A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・5月期 ・6月期1, 2回 ・7月期 ・直前特訓「直前・早慶世界史」		

●本大問の特徴・概要

衣類の歴史についての出題で、空所補充と設問形式の記述式問題と選択問題。リード文は難解な部分もあるが、出題はほとんどが基本事項。設問⑦はやや難問であるが、消去法で何とかできるので全問正解も可能であるから、取りこぼさないように。

●注目すべき小問

[B合否を分ける問題]

[空所]

(B) 毛織物はヨーロッパ各地で生産されていたが、葡萄の産地ギューエンヌ地方とともに百年戦争のきっかけとなったフランドル地方と考える。イギリス王は羊毛の輸出先として、フランス王はフランドル伯を超えて直接支配しようとして争点となった。

(E) 答えは17世紀後半などのヒントから東インド会社で問題ないが、リード文の読みようによっては混乱する受験生もいたのではないかな。

[設問]

③17世紀末から、ルイ14世による1685年のナント王令（勅令）の廃止は基本。

⑧フィリピンのマニラと結ぶアカプルコ（ガレオン）貿易は近年頻度が高いので要注意。この新大陸産の銀が中国で両税法から一条鞭法へ、ヨーロッパの価格革命へ影響する。

[A正答すべき問題]

[空所]

(A) エリザベス1世の父王は1534年に首長令を発しイギリス国教会を創始したヘンリ8世。

[設問]

②年代からアンリ4世、ケベックの建設者からシャンプランの組み合わせで正解は導ける。

⑤南部10州のアントワープに代わって、北部7州の独立後、中心となるのはアムステルダム。中継貿易でオランダは繁栄し、17世紀前半はオランダの世紀と呼ばれる。

⑨常識。江西省も問われることが多い。

⑩イギリス産業革命の木綿工業の原料の綿花は、産業革命が始まった18世紀後半はインド産であるが、インドからイギリスへの輸送費がかかり、18世紀末からはアメリカ産が中心となる。ただアメリカ独立の頃のアメリカ南部の代表的農作物はタバコ・藍であるから要注意。インド産の綿花が再び中心となるのはアメリカの南北戦争後、アメリカが保護貿易に転じてから。またスエズ運河が開通した1869年以降であることも確認しておくこと。

【IV】

予想配点	20/100点	時間配分の目安	10/60分
出題分野・テーマ	石油関連史		
出題形式	空所補充（記述式）		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A)B (B)B (C)A (D)A (E)B (F)A (G)A (H)B (I)A (J)A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・夏期講習「近代史」「現代史」 ・直前特訓「直前・早慶世界史」		

●本大問の特徴・概要

地球温暖化・エネルギー問題・アメリカ大手自動車会社の経営破綻が背景の出題と考えられる。新聞のコラムなどを受験生であっても読むことをお勧めする。ただ出題は近現代史の標準的問題で、全問正解も十分可能である。

●注目すべき小問

[B合否を分ける問題]

[空所]

(A) トラスト、スタンダード石油からロックフェラーは易しい出題。鉄鋼王カーネギー、鉄鋼・銀行のモルガンは常識。

(B) 1890年であるからシャーマン反トラスト法。この反トラスト法は、セオドア=ローズヴェルト大統領が革新主義を進める中で励行させようとした法としても抑えておきたい。反トラスト法は他にウィルソン大統領が新自由主義の中で1914年に制定したクレイトン反トラスト法がある。

(E) マラッカ海峡に面するからスマトラ島は常識。東南アジアのメコン川・メナム（チャオプラヤー）川・イラワジ川、スマトラ島・ジャワ島・ボルネオ島の地理的位置は絶対必要な知識である。

(H) アングロイラニアン石油会社を国有化したモサデグ。しかし、モサデグは国際石油市場から締め出され、石油生産の激減から財政難に陥り、1953年王党派によるクーデタで失脚した。モザデグなども間違える受験生も多いらしいが、皆さんは大丈夫だろうか？

[A正答すべき問題]

[空所]

(C) (D) (I) は基本、間違えれば即不合格。

(F) パレンバンは、唐の僧侶義浄がインドからの帰路で立ち寄ったシュリーヴィジャヤの首都、『南海寄帰内法伝』を著した場所としても有名。義浄はこの地の大乘仏教の繁栄振りを紹介している。

(G) 1890年代、経済的利権から判断する。トルコ系カージャール朝の国王の専制とイギリス資本の搾取に反対して起こったタバコボイコット運動。またパン=イスラーム主義者のアフガーニーが影響したことでエジプトのウラービーの乱ともによく出題されるので注意。

(J) 1991年にアメリカ中心の多国籍軍とイラクの湾岸戦争は、原因となったイラクのクウェート侵攻がよく出題される。